

資源評価・新規対象種に関する資源調査

(水産資源調査・評価推進委託事業 (我が国周辺水産資源))

寺門弘悦・山根広途・佐々木 正・石原成嗣・井口隆暉・岡本 満・森脇和也

1. 目的

改正漁業法に基づき、新たに資源評価対象種に加えられた水産資源について、適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うため、科学的評価に必要な統計データや生物学的情報の収集を行う。

2. 方法

本県が参画する資源評価に新たに加えられた対象種 (以下、新規対象種) のうち、2024 (令和 6) 年度は日本海ブロックの 22 種 (アンコウ、イトヨリダイ、キアンコウ、キジハタ、クロザコエビ、クロダイ、コブダイ、シイラ、チカメキントキ、チダイ、トゲザコエビ、ハツメ、ヒメジ、ヒレグロ、マゴチ、マハタ、マフグ、エゾボラモドキ、エッチュウバイ、クロアワビ、サザエおよびメガイアワビ) および西海ブロックの 2 種 (サワラおよびマルアジ) について、島根県漁獲管理情報処理システムから出力した漁獲統計資料または産地市場の販売データから漁業種類別漁獲量の集計を行った。また、類似種との混在が懸念される魚種の水揚げ実態について、産地市場で実態調査を実施した。

3. 結果

(1) 漁獲状況調査

新規対象種の 2023 (令和 5) 年の漁獲量 (属人) を図 1 に示した。キアンコウとアンコウは混在して水揚げされることがあるため「アンコウ類」として集計した。トゲザコエビとクロザコエビは、販売データ上では両種は区別されていないため「ザコエビ類」として集計した。サワラは、カマスサワラやヨコシマサワラを含む「サワラ類」として集計した。

(2) 産地市場での混在実態調査

これまでの調査でイトヨリダイは、市場によってはソコイトヨリが混じることが明らかとなっている。その他、クロダイ、チカメキントキ、ハツメ、ヒメジ、マゴチ、エゾボラモドキおよびメガイアワビは類似種が混在して水揚げされている可能性が残されており、実態把握が今後の課題である。また、アンコウ、キアンコウは、切り身の状態で混在して水揚げされる場合があり、両種の混在割合と元の体長の

推定が課題である。2024 年度は、元の体長を推定するための切り身状態で計量可能な形質データの収集を行った。

4. 成果

調査結果は (国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所に送付した。他の参加機関の調査結果と合わせて、日本海ブロックの新規対象種のうちヒレグロ、ハツメ、チダイ、トゲザコエビ、クロザコエビ、キジハタ、シイラおよびイトヨリダイは「令和 6 (2024) 年度 資源評価調査報告書 (拡大種)」として、その他の 14 種は「令和 6 (2024) 年度 資源評価調査状況報告書 (拡大種)」として、魚種別に取りまとめられて公表された^{*}。また、西海ブロックのサワラ日本海・東シナ海系群およびマルアジ日本海西・東シナ海系群の資源評価に調査結果が利用された。

※公表 Web サイト (2025.6.20 時点) : 我が国周辺の水産資源の評価>水産資源評価結果>令和 6 年度魚種別資源評価

<https://abchan.fra.go.jp/hyouka/doc2024/>

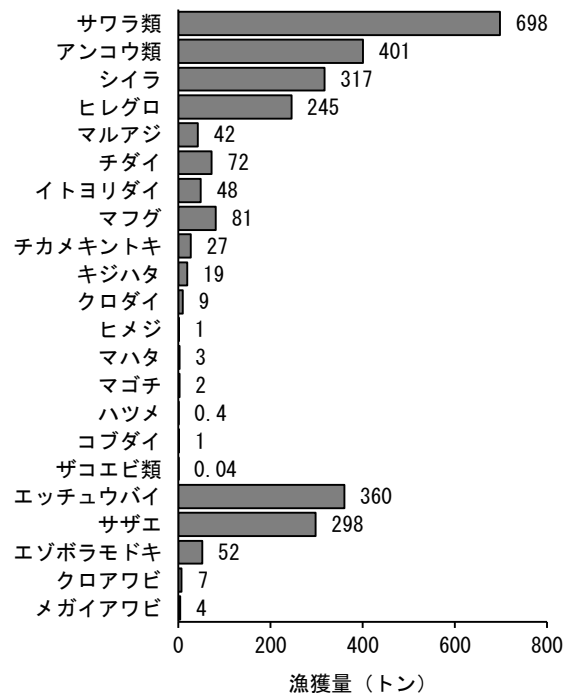


図 1 資源評価・新規対象種の 2023 年の漁獲量 (属人)